（平成２６年１０月２１日）

第８回　赤松小三郎研究会　のご報告

日時　　：Ｈ２６．１０．２１（火）１８：３０～２０：３０
場所　　：東京・文京シビックセンター　４Ｆ　シルバーホール
出席者　：７９名（同窓生４０名、一般３９名）

◎講演会「赤松小三郎はなぜ薩摩藩の刺客に暗殺されたのか」
講師：鏡川伊一郎氏（作家・歴史評論家）

＜配布資料＞
１．関連年賦
２．赤松小三郎政体改革意見書（松平春嶽宛）～「赤松小三郎実録」より

＜内容＞
講演の前半部分は、赤松小三郎が暗殺される直前の政治状況について解説がありました。
１．**幕末の政局**　～　一括りに勤王（尊王）派 vs 佐幕派という単純なものではなかった、そもそも征夷大将軍は天皇からいただく官位なのでその意味では徳川家も勤王派。孝明天皇は攘夷派で幕府の力を利用して鎖国維持を望んだため公武合体運動を推進した。(孝明天皇毒殺説についてはこのレジメでは割愛)
２．**孝明天皇崩御（慶応２年１２月）から王政復古クーデター（慶応３年１２月）・鳥羽伏見の戦い（慶応４年１月）**～　配布資料・関連年賦に基づいての説明あり。孝明天皇崩御の時点で幕府の統治は断末魔、翌**慶応３**年５月、**赤松小三郎は松平春嶽宛に「建白七策」を提言**、小三郎は大政奉還については触れていないが幕府が政権を返還することが前提なので言うまでもないということか、同年６月、坂本龍馬の「船中八策」、これは恐らく小三郎の「建白七策」のパクリだろう、原本も存在しない、同年１１月の「新政府綱領八策」は原本が２通現存する、**同年９月、赤松小三郎が暗殺される**、同年１０月、土佐の山内容堂の大政奉還の建白書の提出を受けて将軍慶喜は大政奉還を上表、この前日に「討幕の密勅」を薩長の討幕派が受け取った、同年１１月、坂本龍馬が暗殺される、**同年１２月９日、小御所会議・王政復古クーデター（←後半で別途解説)**、慶応４年１月、鳥羽伏見の戦い
（後半はいよいよ赤松小三郎の暗殺についてです）
３．**西郷隆盛の実像**　～　西郷は薩摩藩の「庭方役」、つまりスパイの役割からスタートしており、謀略の人。そして根底にはテロリズムがある。それは小御所会議が討幕派の思うように進まない中で、西郷が岩倉具視に「短刀一本あれば片付くではないか」と公議政体（議会政治導入）派の山内容堂を会議中に刺すよう促したことに象徴される。結局小御所会議では先に大政奉還した慶喜は欠席のまま、かつ参加した藩は、薩摩・土佐・越前・芸州・尾張の５藩のみの中で岩倉や大久保利通・西郷ら討幕派により、慶喜の官職（内大臣）辞職及び徳川家所領の削減が決定された。これが王政復古の**「クーデター」**といわれる所以。結局その直後、鳥羽伏見

の戦い・戊辰戦争で薩長中心の討幕派が武力でもって権力を手に入れる。小三郎や龍馬の提言した「平和的に議会政治導入への移行」とは相反する結果となった。もっとも、小御所会議の直前に小三郎も龍馬も暗殺されている。

４．赤松小三郎はなぜ薩摩藩の刺客に暗殺されたか　～　小三郎暗殺の直接の下手人は小三郎の私塾の門下生だった桐野利秋ら薩摩藩士。後に発見された桐野の日記には暗殺の様子が克明に記されている。これは桐野に暗殺を指示した者への報告書代わりと推測する。

＜それが誰かは、鏡川氏は明言しなかった。当日の話の流れからすると西郷隆盛のような印象も受けたが、もしそうだとしたらそれは西郷の一存だったのか？一方、鏡川氏の著書「“龍馬”が勝たせた日露戦争」（日本文芸社）の中では、この日記を誰かに読ませるためだったことについて「その誰かは薩摩藩の者ではありえない。嘘がばればれだからだ。私の推測にしか過ぎないが、長州藩の山形有朋あたりに赤松暗殺のいきさつを報告し、その文面が日記に転用されているのではないだろうか。」（Ｐ６１）とある。いずれにしても、以下では「誰が暗殺の指示をした」のではではなく「**なぜ薩摩藩の刺客に**暗殺されたのか」について触れる。＞

～結論としては、**小三郎は薩摩藩の軍事機密保持のために殺された～**

小三郎と薩摩藩の関係に絞ると、小三郎が慶応２年に京都で私塾を開き、英国式兵法等の教授を始めたことで、当時武力討幕のため軍備拡張路線中の薩摩藩の目に留まった。その後小三郎は薩摩藩に乞われて「重訂英国歩兵練法」（薩摩蔵版）を出版するなど、結果として薩摩藩の軍事顧問的存在になっていった。また小三郎は武力で権力を奪う事には否定的であった。小三郎が暗殺されるきっかけは、小三郎が上田藩からの再三に渡る命に従い帰藩することが決まったことで、これまでの薩摩藩の軍事機密が幕府筋に漏れるのを恐れてのことと解説。更に鏡川氏は、小三郎が暗殺される前月の慶応３年８月に薩摩藩が具体的な討幕の武力蜂起の秘策を長州藩に明かしていたが、これを薩摩藩のいわば軍事顧問であった小三郎も知りうる立場であったことを指摘。この秘策は薩摩藩では島津久光・西郷隆盛・大久保利通・小松帯刀の４人のみが知る極秘事項だったが恐らく島津久光あたりから聞かされたのではないか。**要するに小三郎は薩摩藩の軍事的機密事項を知りすぎた男として殺された。**これは、小三郎が武力によらずに公議に基づいた民主的な政治体制への移行を唱えていただけに誠に皮肉であり、本当に惜しいことであった。

最後に、参加者との質疑応答が行われた。参加者からは挙手が絶えず、応答時間は３０分超に及んだ。

尚、今回の講演会の復習をされたい方には、上記レジメ中でも紹介した　鏡川伊一郎氏著作「“龍馬”が勝たせた日露戦争」（日本文芸社）の一読をお薦めします。

以上

赤松小三郎研究会事務局　荻原　貴（７９期）